

オカムラグループの価値創造ストーリー

オカムラはミッションを実現していくために、新たな価値の創造に挑戦し続けます。

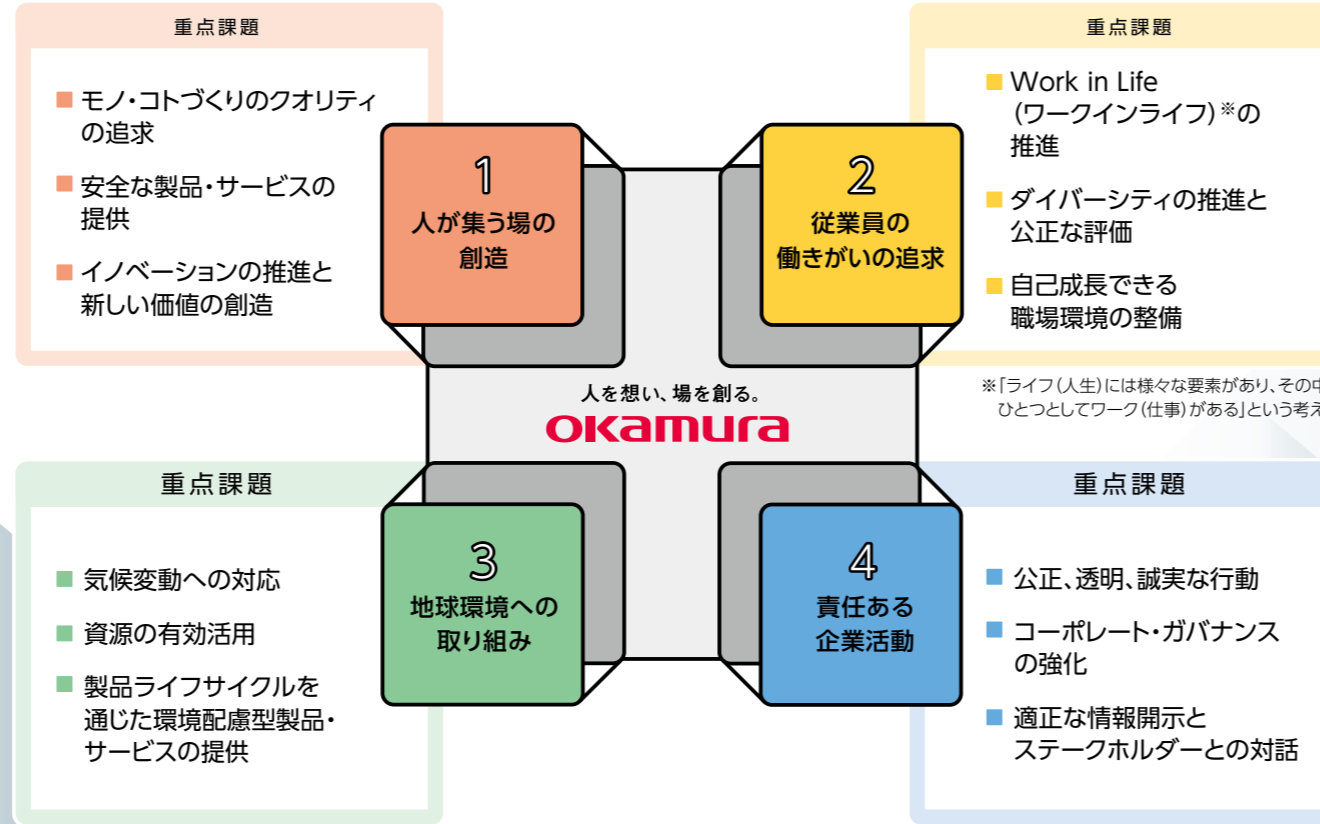
ビジネス環境

- 労働力人口の継続的減少
- 働き方・働く環境の多様化
- デジタル技術の進展による社会環境と価値観の変貌
- 新興国での高所得者層の拡大消費の高度化
- シェアリングエコノミーの進展
- サブスクリプション型・リカーリング型事業モデルの進展
- オープンイノベーションによる新規事業創出力の拡大

社会課題

- 世界人口の増加、国内人口の減少
- 超高齢社会
- 気候変動の緩和と適応
- 生物多様性の喪失と生態系の崩壊
- 資源枯渇
- 大規模な自然災害
- サイバー攻撃などのITリスク
- 世代間格差、地域格差の拡大

オカムラグループサステナビリティ重点課題4分野



中期経営計画

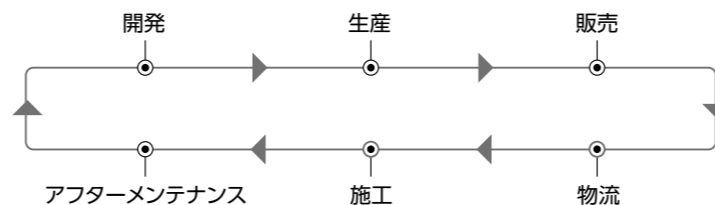
基本方針

新たな需要の創造、効率的な経営、グローバル化の推進により、継続的な成長とESGへの積極的な取り組みを通じて企業価値向上を図る

2024年度目標 営業利益率 **7%**以上 ROE **10%**

具体策 ■ サプライチェーンの改革 ■ デジタル技術の活用 ■ 海外事業の強化

- オフィス環境事業
- 商環境事業
- 物流システム事業



ステークホルダーの皆様

お客様

販売店様

お取引先

株主・投資家

従業員とその家族

社会・行政

提供価値

ミッション

豊かな発想と確かな品質で、人が集う環境づくりを通して、社会に貢献する。

オカムラグループが目指す姿

私たちは、高品質な製品・サービスを提供し、新しい価値・市場・トレンドの創造に挑戦し続けることで信頼されるリーディングカンパニーを目指します。

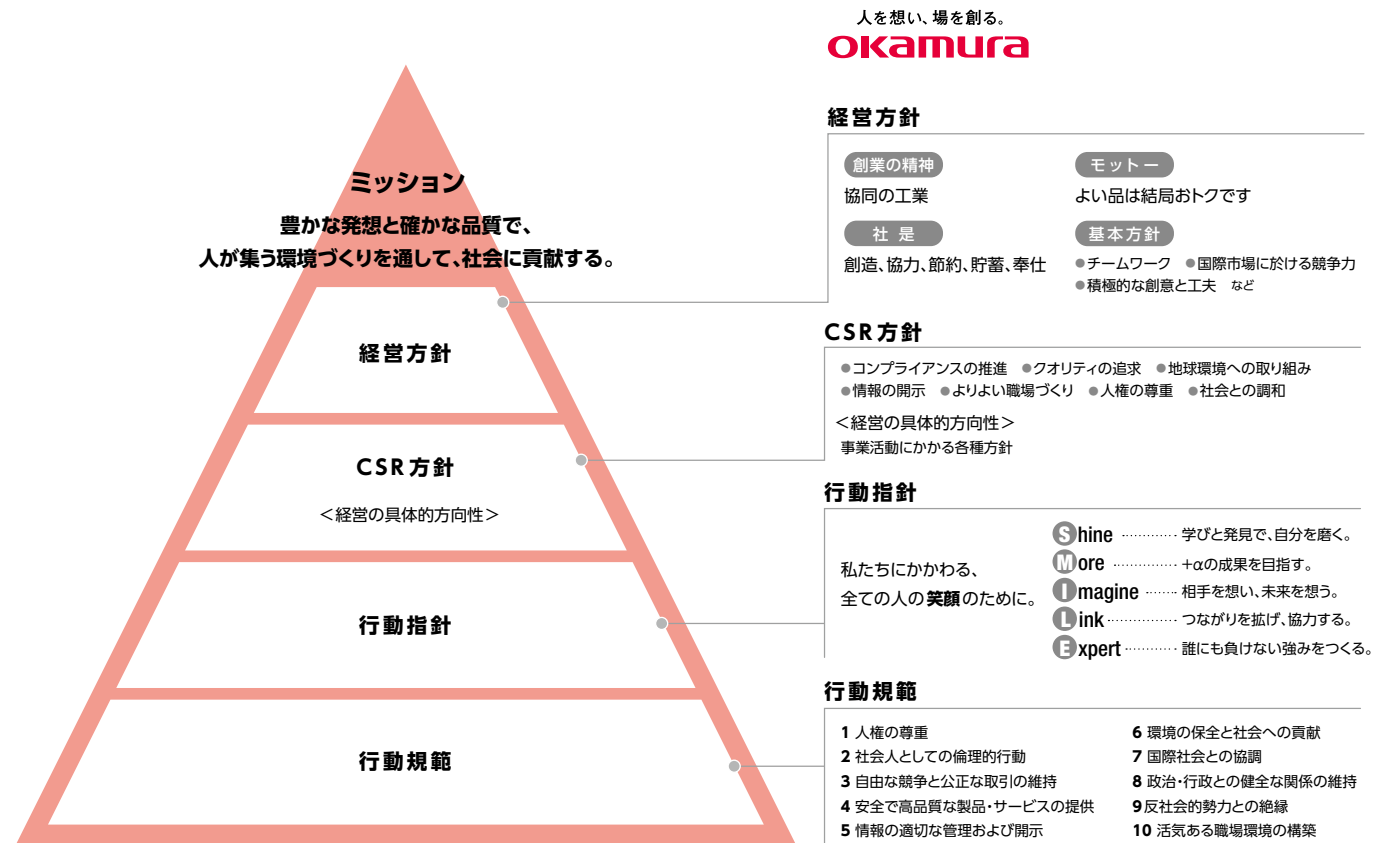
SDGsへの貢献



オカムラグループは、持続可能な世界の実現に向け国連が定めた、2030年までの国際的な目標であるSDGsの理念に共感し、事業活動と社会貢献活動を通じて、目標達成に貢献します。

オカムラグループのサステナビリティ推進

オカムラは「人を想い、場を創る。」をコーポレートメッセージとしています。さまざまな活動が、仕事や日常生活を含めた社会生活の「場」創りを中心とし、オカムラの創るモノやコトの起点には、いつも「人」がいます。オカムラは「豊かな発想と確かな品質で、人が集う環境づくりを通して、社会に貢献する。」をミッションとして、経営方針を原点に企業の社会的責任を果たしていきます。



SDGsへの貢献

オカムラグループは、持続可能な世界の実現に向け国連が定めた、2030年までの国際的な目標であるSDGs (Sustainable Development Goals：持続可能な開発目標)の理念に共感し、事業活動と社会貢献活動を通じて、目標達成に貢献します。



本レポートの記載

責任ある企業活動 (P.23)



人が集う場の創造 (P.42)



地球環境への取り組み (P.58)

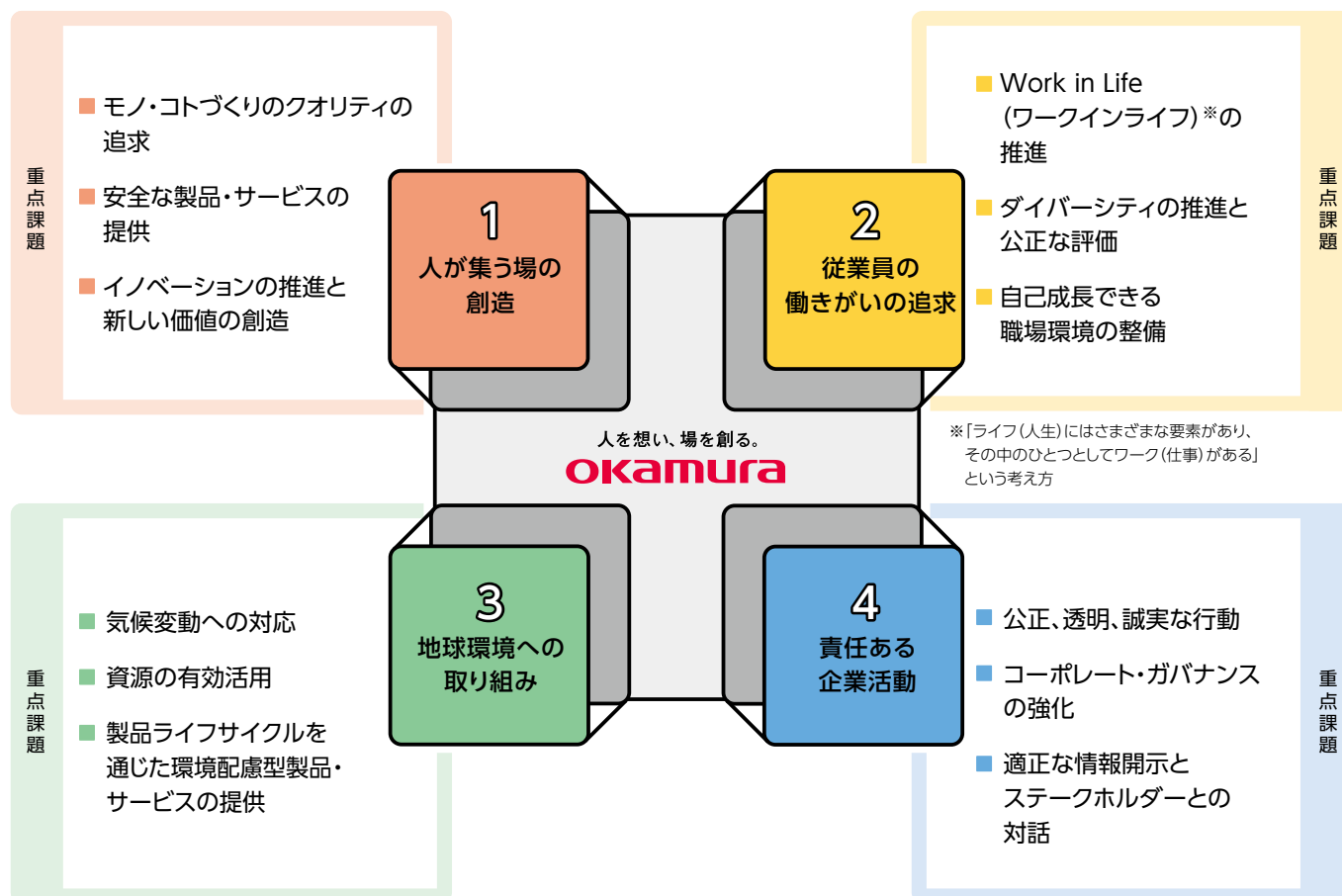


従業員の働きがいの追求 (P.89)



オカムラグループのサステナビリティ重点課題

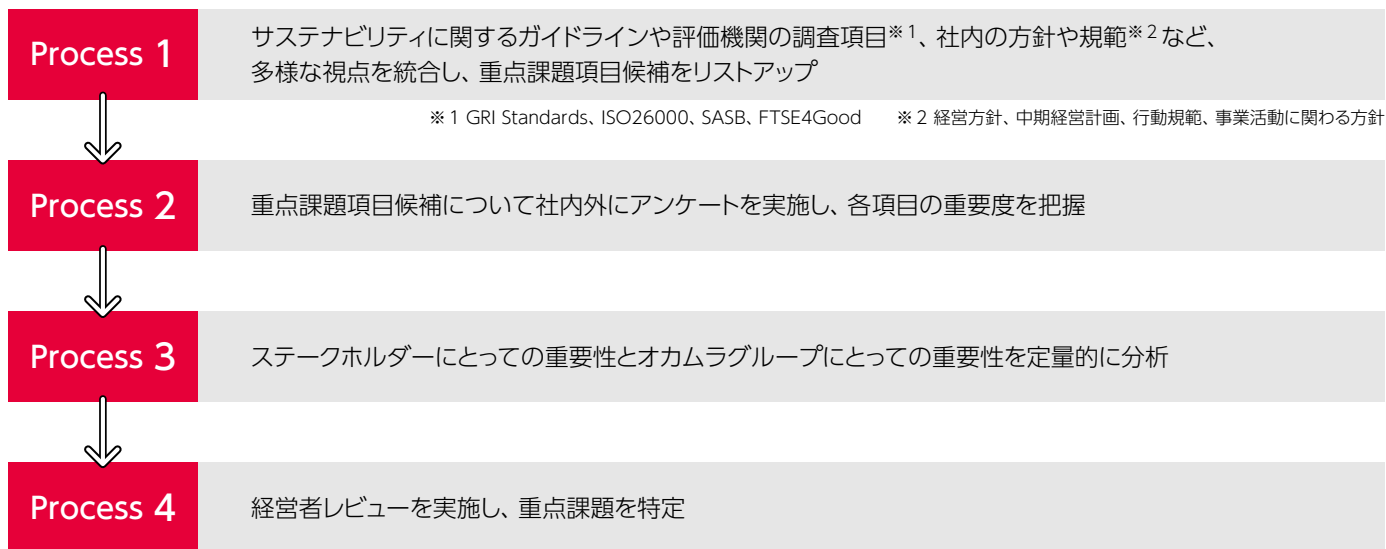
オカムラグループは、ステークホルダーの皆様からの期待や社会の要請に対し、グループ一体となって応えていくために、「人が集う場の創造」、「従業員の働きがいの追求」、「地球環境への取り組み」、「責任ある企業活動」の4つの観点からサステナビリティ重点課題を特定し、取り組みを推進しています。



オカムラグループのサステナビリティ重点課題4分野			
<p>1</p> <p>人が集う場の創造</p>	<p>2</p> <p>従業員の働きがいの追求</p>	<p>3</p> <p>地球環境への取り組み</p>	<p>4</p> <p>責任ある企業活動</p>
<p>「豊かな発想と確かな品質で、人が集う環境づくりを通して、社会に貢献する。」をオカムラグループのミッションとして、人が集まる場に新しい価値をつくる会社として進化します。</p>	<p>健康と安全に配慮した職場づくりに努め、従業員一人ひとりの多様性を尊重した上、それぞれが働きがいを感じ、互いに協力し、自己成長できる環境をめざします。</p>	<p>事業活動におけるサプライチェーン全体を通じて地球環境への配慮を徹底することで、持続可能な社会づくりに貢献していきます。</p>	<p>法令遵守はもとより高い倫理観に基づき企業活動を行い、社会から信頼され愛されるグローバル企業をめざします。</p>

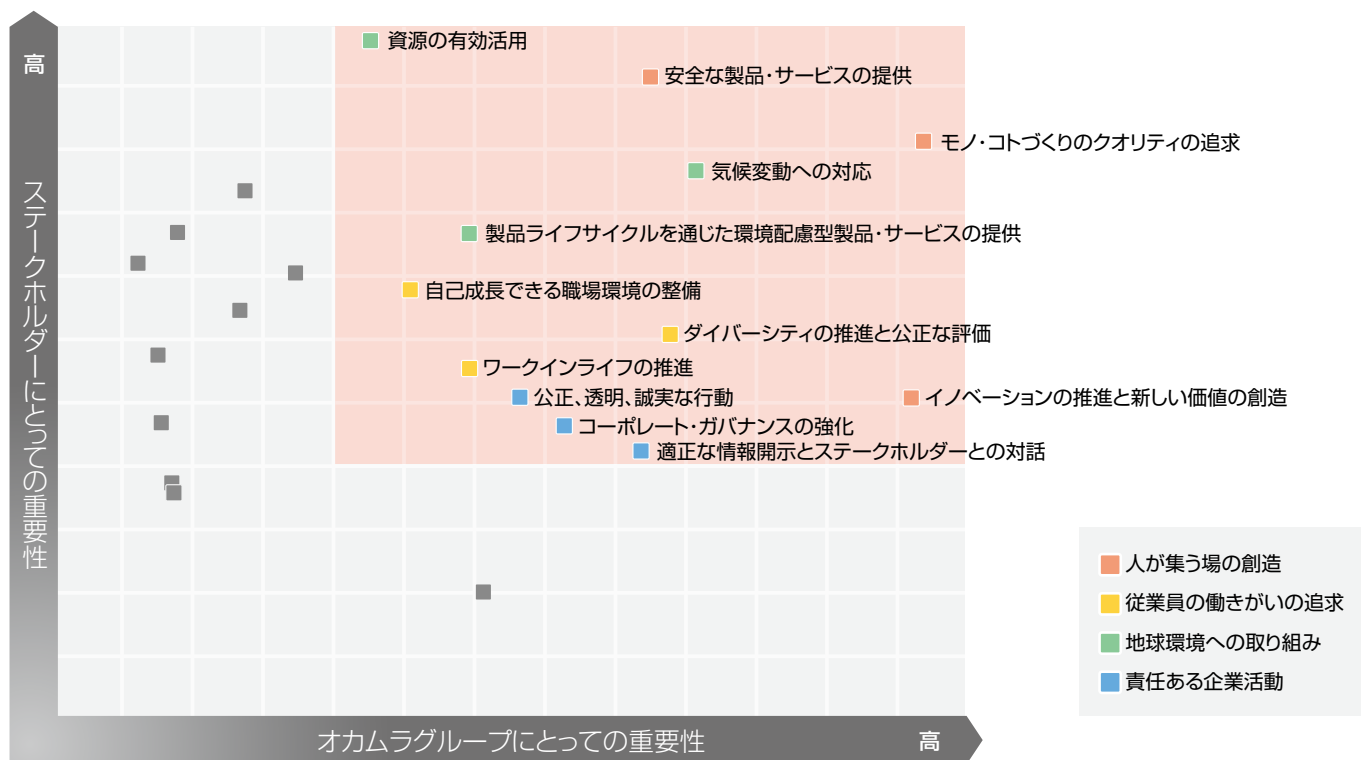
◆ 重点課題特定プロセス

サステナビリティ重点課題については、以下のプロセスにより課題の抽出、重要性の分析等を行い、経営者レビューを通じて特定しました。(2018年度特定)



◆ 重点課題マップ

ステークホルダーにとっての重要性とオカムラグループにとっての重要性を二軸に、サステナビリティにおける課題をマッピングし重点課題を明確化しました。



サステナビリティ行動計画



CSR方針 2. クオリティの追求

高い品質と安全性を追求し、創造性豊かな技術・製品・サービスを社会に提供します。

中期目標(～2022)

お客様にとって真に価値のある製品や空間づくりを提案・提供し、さらにイノベーションを誘発することで社会課題の解決に貢献します。

ESG分類：S(社会)

課題(重点課題は★)	KPI	2020年度目標	関連するSDGs
★ モノ・コトづくりのクオリティの追求	中期経営計画参照(2020年5月13日開示 中期経営計画の策定に関するお知らせ https://www.okamura.co.jp/company/ir/news.html) ・社会にとって真に価値ある製品や空間づくりを提案・提供 ・自らがイノベーションを起こし、また真に価値ある空間の提供により社会全体のイノベーションを創発 ※2020年度は年度管理せず		8 9 11 17
★ イノベーションの推進と新しい価値の創造			9 11 17
★ 安全な製品・サービスの提供	重大製品事故発件数 ※重大製品事故の定義 当社製品により、生命・身体に重大な被害を及ぼした事故、および製品以外の財産に火災等の重大な被害を及ぼした事故	0件	9 12



CSR方針 5. よりよい職場づくり

健康と安全に配慮した職場づくりに努め、従業員一人ひとりの多様性を尊重した上、それぞれが働きがいを感じ、互いに協力し、自己成長できる環境をめざします。

中期目標(～2022)

多様な人材が活躍できる制度や仕組み作りと職場改善に取り組み、自らが意識を変え行動することによって、いきいきと働ける環境を追求します。

ESG分類：S(社会)

課題(重点課題は★)	KPI*2	2020年度目標*2	関連するSDGs
★ ワークインライフの推進 ～WiL-BE*1～	WiL-BEおよびWork in Lifeの理解度	「2021年度までに8割超」達成に向けた取り組み推進	3 8
★ ダイバーシティの推進と公正な評価 ～Work Rule*1～	女性従業員比率	21%	5 8 10
	障がい者雇用率	2.30%	
	女性管理職及び管理職候補者数	「2021年度末で2019年度実績の1.5倍」達成に向けた取り組み推進	
	新卒女性採用比率	40%	
	育児休職からの復職率	男女ともに100%	
★ 自己成長できる職場環境の整備 ～Human Development*1～	相互理解によりチームと個のパフォーマンスを高める ・新入社員インストラクター面談実施率 ・育成面接(7月・8月)実施率 ・目標管理面接(4月・10月)実施率	各項目100%実施およびアンケートによる効果検証	4 8
	主体的に学ぶ意欲を支援する ・e-ラーニング受講率 ・通信教育受講率	公開講座型e-ラーニングと通信教育の拡充(補助制度あり) ・自己負担によるe-ラーニング受講者15% ・自己負担による通信教育受講者5%	
	2020年度、自分が「なりたい姿」を学ぶ場として企業内大学を開設	新たな取り組みのため、数値目標は2021年度から設定	
健康と安全に配慮した職場づくり	有給休暇平均取得率	70%	3 8
	一般定期健康診断受診率	100%	
	ストレスチェック受検率	100%	
	喫煙率	30%	
	「積極的支援」「動機づけ支援」の対象者比率(40歳以上の健診受診者)	各12%、6%	
チームワークによる業務の遂行	話し合い*3実施率	100%実施	8

*1 詳細→P.92 *2 対象範囲：オカムラ単体 *3 話し合い：職場課題や環境の改善のための全社取り組み



CSR方針 3. 地球環境への取り組み

環境に配慮した事業活動を行い、「持続可能な社会の構築」に貢献します。

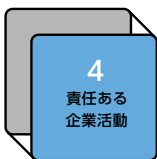
中期目標(～2022)

環境活動を実践して「エコの種」を育て、環境活動を通じて生み出された製品やサービス、「エコの実」をお客様に提供します。(詳細→P.62)

ESG分類：E(環境)

課題(重点課題は★)	KPI	2020年度目標	関連するSDGs
★ 気候変動への対応	1-1 地球温暖化防止対策の推進 ・エネルギー生産性向上 ・物流における温暖化防止	エネルギー生産性向上 前年度比1%向上 ・生産系サイト原単位低減 ・事務所系サイト原単位維持 ・物流CO ₂ 排出量削減	7 13 15
★ 資源の有効活用	1-2 省資源・廃棄物削減による資源循環の推進 ・配送・施工系廃棄物のリサイクル率向上 ・Manifestoの電子化の運用評価 ・ゼロエミッションの継続と対象範囲の拡大	・処理業者リサイクル率評価継続 ・施工系廃棄物電子Manifesto運用 ・ゼロエミッションの継続と配送センターの範囲拡大	6 7 12 14 15
★ 製品ライフサイクルを通じた環境配慮型製品・サービスの提供	1-4 製品開発における環境配慮型企画と設計推進 ・製品開発率の向上(グリーンウェーブ・グリーンウェーブ+開発製品管理) ・製品環境情報管理の改善(SDSを更新と改善) ・アセスメント管理の精度向上(事業領域別チェック項目の見直し)	・グリーンウェーブ、グリーンウェーブ+販売比率、提案率の向上 ・オフィス・店舗の環境提案率の向上	6 12 13 14 15
生物多様性の保全	・森林資源の持続可能な利用の推進 ・ACORN活動の積極的推進：環境教育、社会貢献活動の実施	・国産材・地域材の利用拡大 ・ACORN活動の積極的推進	6 13 14 15 17
環境汚染の防止	5-1 汚染予防・有害化学物質対策 ・大気汚染・水質汚濁・土壌汚染防止法令順守 ・高濃度PCBの適正管理と水銀含有廃棄物の適正処理 ・フロン関連設備の点検実施と漏洩量管理	法令に対する監視項目管理	6 11 14 15 17
	1-3 環境影響度の低減 ・PRTR排出	PRTR：移動量前年度比1%原単位低減	

※番号はオカムラグループ 環境目標より



CSR方針 1. コンプライアンスの推進

法令遵守の徹底や腐敗行為の防止はもとより、高い倫理観に基づき行動し、公正、透明、誠実な企業活動を行います。

中期目標(～2022)

高い倫理観に基づく公正で透明かつ誠実な企業経営を実現するべく、ガバナンス、情報管理、リスク管理の強化に努めます。

課題(重点課題は★)	KPI	2020年度目標	関連するSDGs
★ 公正、透明、誠実な行動	入社時および新任役職者向けコンプライアンス教育実施率	100%	5 8 10 16
	コンプライアンス教育の充実	行動規範ケースブック改定と活用促進	
★ コーポレート・ガバナンスの強化	取締役会の多様性、独立性、客観性の充実によるガバナンス強化	・女性取締役の登用 ・独立社外取締役の登用	5 8 10
	適切な情報管理	個人情報保護の徹底 Pマークの維持継続 各国要請に合わせた個人情報管理	
災害対策、リスク管理体制の強化	災害備蓄の改善・充実	災害備蓄品 配備率100%	10 11
	エマージェンシーコール回答率	100%	
	BCP構築	BCP見直し	
責任ある調達と取引先との信頼関係の構築	サプライチェーンにおける各種リスク分析実施	ハイリスクサプライヤーの特定	16 17
	CSR調達ガイドラインの浸透活動	取引のしおり改定	

ESG分類：G・S(ガバナンス・社会)

CSR方針 4. 情報の開示

ステークホルダーの皆様に適時・適切な情報開示を行うとともに、コミュニケーションの充実を図り、信頼を得られるよう努めます。

中期目標(～2022)

法令に基づく情報開示を適切に行うとともに、ステークホルダーにとって重要と判断される情報について、様々な手段により、積極的に開示を行います。

課題(重点課題は★)	KPI	2020年度目標	関連するSDGs
★ 適正な情報開示とステークホルダーとの対話	ステークホルダーダイアログ実施	ステークホルダーダイアログ実施	16 17

ESG分類：G(ガバナンス)

CSR方針 6. 人権の尊重

人権を尊重し、一人ひとりの個性や多様な文化の理解に努め、差別を排除します。

中期目標(～2022)

社内及び事業に関連する人権リスクを把握し、リスク低減に向けた取り組みを実行します。

課題	KPI	2020年度目標	関連するSDGs
人権の尊重	国連グローバル・コンパクト署名の維持・継続	COP(年次報告書)提出および関連機関への積極関与	5 8 10
	人権に関する各種リスク分析実施	人権に関するハイリスク分野の特定	

ESG分類：S(社会)

CSR方針 7. 社会との調和

地域と共存し、社会とともに成長する企業をめざし、健全でよりよい社会の実現に寄与します。

中期目標(～2022)

事業活動の中で蓄積してきた知見と経験をいかした社会貢献と社会課題解決に向けた取り組みを実行します。

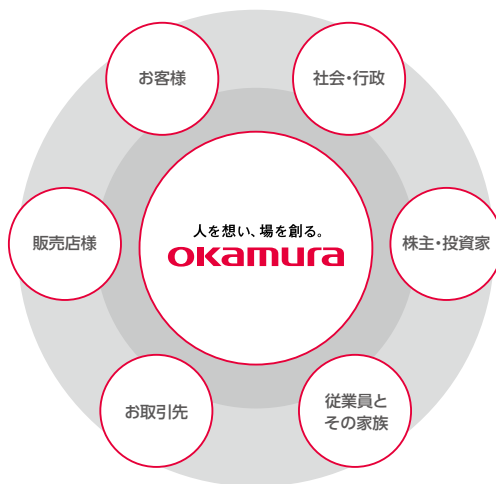
課題	KPI	2020年度目標	関連するSDGs
地域社会との良好な関係性づくり	社会貢献に関する方針策定	社会貢献に関する方針策定	17

ESG分類：S(社会)

ステークホルダーエンゲージメント

◆ オカムラグループのステークホルダー

オカムラグループはさまざまな機会を通じて幅広いステークホルダーの皆様とコミュニケーションを図り、ご意見やご要望を経営の充実や取り組みの改善につなげることで、社会から信頼され愛される企業をめざします。



ステークホルダー	基本姿勢
お客様	「安全で高品質な製品・サービスの提供」により、お客様の満足度の向上をめざします。
販売店様	顧客満足の最大化という共通の目標に向けて、相互に企業価値を高めていきます。
お取引先	お取引先との公正・公平な取引を前提に、相互の連携による事業面の改善活動や環境・CSRの側面を重視した調達活動を推進します。
株主・投資家	事業の発展と企業価値の持続的な向上により株主価値の拡大に努めるとともに、株主・投資家の皆様からより高い信頼を得られるよう、適時・適切な情報開示を行い透明性の高い経営をめざします。
従業員とその家族	従業員の相互協力を重視し、公正な労使関係を基調に、一人ひとりの従業員が最大限に能力を発揮できる職場づくりを進め、企業の成長と従業員の生活向上に結びつけています。
社会・行政	さまざまな分野、世代の方々、関係機関などと積極的に対話・交流を行い、社会との共生を図っています。

◆ 「CSR Report 2019」アンケート結果

2018年度は社外・社内アンケートを実施し、オカムラグループが取り組むべき重点課題とCSR Reportについて多くのご意見をいただき、取り組みに反映させました。2019年度は、3年に一度実施する従業員意識調査において、CSR Reportの活用状況などを確認し、一定の評価を得ています。

今後も社内外の声を参考に、各種取り組みのレベルアップを目指します。

オカムラグループのCSR意識調査

The image shows a survey result interface. At the top, it says '質問' (Question). Below, question (21) asks if the respondent knows the content of the 'CSR Report 2019'. There are five response options (1-5) with a corresponding bar chart showing the distribution of answers. Below this, question (22) asks for the most useful items from the 'CSR Report 2019'. A list of 12 items is provided, with '1. トップページ' (Home page) selected. A QR code and the URL '【参考】CSR情報のポータルサイト' are also visible.

◆ ステークホルダーごとのコミュニケーションの方法と主な対応例

お客様	基本姿勢	製品そのものの品質・機能が優れていることはもちろん、質の高いサービスがあって初めて、お客様の満足度が高まります。オカムラグループは、「安全で高品質な製品・サービスの提供」を「行動規範」*に明記し、お客様の満足度の向上につながる製品・サービスを提供することをめざします。 *「行動規範」：オカムラグループの「基本方針」に基づき、企業活動において求められる心構えや行動の姿勢をまとめたもの(詳細→P.25)	
	コミュニケーションの方法	お客様相談室	お客様からのご相談・ご要望に対して的確な対応を行うとともに、その内容を企業活動に反映させるために、お客様相談室を設置しています。2019年度、お客様相談室に寄せられたお問い合わせ件数は約22,600件で、主な内訳は、製品問い合わせ、アフターサービス依頼、カタログ請求となっています。
		アフターメンテナンス(点検・修理)	お客様に販売した製品のアフターメンテナンスにおいて、一貫したサポート体制を構築しています。オフィス家具をはじめ、パブリックスペースにおける建材製品や防水板などの防災設備に至る幅広いオカムラ製品を対象に、保守・点検、修理・修繕、クリーニングなどを通じて、製品のロングライフ化をサポートしています。
		製品情報の発信 納入事例集・情報誌の発行	オフィス、教育施設、医療・福祉施設、研究施設、商環境、物流システムなど、分野ごとのカタログを定期的に発行し、お客様の業種・業態に即した製品情報の提供を行っています。また、カタログや製品の安全・品質に関する重要な情報を、ウェブサイトを通じて広く告知しています。 優れた納入事例をまとめた冊子や情報誌を発行し、時代の変化やお客様のニーズに合った空間づくりの提案をしています。
販売店様	基本姿勢	オカムラグループは、お客様の多様なニーズにきめ細かく対応するために、直接販売だけでなく、販売店様を通じた製品販売も行っていきます。販売店様は私たちのパートナーであり、オカムラにとってのお客様でもあるという考えのもとに、顧客満足の最大化という共通の目標に向けて、相互に企業価値を高めていきます。	
	コミュニケーションの方法	取扱製品別販売店会	販売店様の交流と発展を目的として、取扱製品別に販売店会を設けています。それぞれの販売店会では、全国や地区ごとの交流会などを通じてコミュニケーションの充実を図っています。また、優れた納入事例や優秀な実績に対する褒賞を実施し、企業マインドの向上と新たなチャレンジにつなげています。
		各種研修会	新入社員向けのビジネスマナー教育から、販売スキルの向上に向けた各種研修、将来の経営層を育てるセミナーまで、多様な研修を実施しています。具体的には、カタログ研修会、プレゼンテーション研修会、ビジネスマナー研修会、海外研修などの教育機会を設けています。また、販売店様の従業員向けの通信教育講座や納入事例見学会など、それぞれの販売店会の特性に合わせた支援を通じて、情報や経験の共有を図っています。
		販売店様向け情報サイト	販売店様向けの情報サイトを設け、お客様のニーズに的確に対応し満足度を最大化するためのさまざまな情報を発信しています。
お取引先	基本姿勢	オカムラグループは、「購買の基本方針」の中で、「取引は自由競争を原則とし、取引先とは対等の立場で相互信頼に基づく共存共栄を図る」との考え方を明記し、「CSR調達ガイドライン」を定めています。こうした視点に立ち、お取引先との公正・公平な取引を前提に、相互の連携による事業面の改善活動や環境・CSRの側面を重視した調達活動を推進します。	
	コミュニケーションの方法	情報交換会、技術交流会	お取引先との協力関係を強化し、ともに発展していくために協力を組織し、定期的な情報交換会や技術交流会などを実施しています。
		定期面談、訪問	お取引先に対して「人権」、「労働条件」、「環境保全」、「コンプライアンス」の4項目を中心にCSR調査を行うとともに、お取引先を定期的に訪問し、品質管理や製造技術に関する意見交換を行い、資材調達における品質管理レベルの向上に結びつけています。
		電子ネットワークシステム	多様化する顧客ニーズに対応するために、お取引先との間に設けた電子ネットワークシステムを使って、需要予測や生産計画などの情報を共有し、顧客満足度の向上とサプライチェーン全体の効率化に役立っています。

サステナビリティ推進

株主・投資家	基本姿勢	事業の発展と企業価値の持続的な向上により株主価値の拡大に努めます。また、株主・投資家の皆様からより高い信頼を得られるよう、適時・適切な情報開示を行うとともに、さまざまな機会を通じたコミュニケーションの充実により、株主・投資家の皆様にとって有用と思われる情報を積極的に開示し、透明性の高い経営をめざします。	
	コミュニケーションの方法	株主総会	招集通知のウェブ掲載や、インターネットによる議決権行使の仕組みを導入し、株主・投資家の皆様の利便性向上を図っています。
		決算説明会、施設見学会	決算発表に合わせて半期に一度決算説明会を開催し、決算内容・中期経営計画などについて、経営幹部より説明しています。また、国内外の投資家・アナリストの方々との個別ミーティング（年間約100回）や生産事業所・ショールームなどの施設見学会の開催、証券会社主催のIRカンファレンスへの参加など、幅広いIR活動に努めています。
		情報誌、ウェブサイト	IR活動の一環として、法に基づく情報開示に加え株主・投資家向け情報誌「OKAMURA REPORT」を発行し、最新の財務情報や新製品情報をお伝えしています。さらに、ウェブサイトにてIRコーナーを設け、正確かつ迅速な情報開示を図っています。
従業員とその家族	基本姿勢	オカムラグループは、従業員と共に企業を発展させる協力者、チームの一員と位置づけ、従業員の相互協力を重視した事業活動を通じて、より大きな成果を生み出すことをめざしています。また、公正な労使関係を基調に、一人ひとりの従業員が最大限に能力を発揮できる職場づくりを進め、企業の成長と従業員の生活向上に結びつけています。	
	コミュニケーションの方法	労使での話し合い	定期的に労使協議会・各種委員会を開催し、健全な労使関係の構築に努めています。「労働安全衛生方針」に基づき、健康経営を具体的に推進し、2017年9月には「健康経営宣言」を制定、さらに活動を強化するために、2020年4月1日改定を行いました。
		従業員のワークインライフ実現に向けた取り組み	オカムラが提唱するワークインライフの実現に向け、諸制度の整備・運用にも力を入れ、従業員一人ひとりにとって安全で働きやすく、働きがいのある職場の整備に努めています。
		ダイバーシティ&インクルージョンの推進活動	「ダイバーシティ&インクルージョン方針」に基づき雇用と職場環境の整備に努めています。2016年8月にはダイバーシティ推進プロジェクト（愛称：ソダテルプロジェクト）を発足させ、2018年4月にはダイバーシティ推進室を設置し、一人ひとりが活躍するための各種施策を行っています。
社会・行政	基本姿勢	事業を行う地域の住民の皆様、行政機関、企業、さまざまな分野の団体、さらには次代を担う若い世代など、多くの方々と積極的に対話・交流を行い、社会との共生を図っています。	
	コミュニケーションの方法	地域社会との関わり	それぞれの地域の社会活動、環境活動への参加や、生産事業所での工場見学等を通じて、交流や社会貢献に努めています。
		社会に向けた活動	事業活動の中で蓄積してきた知見と経験を生かし、人財の育成や、社会課題の解決へ向けた情報発信・場の提供などを通じて持続可能な社会の構築に貢献しています。

サステナビリティ推進

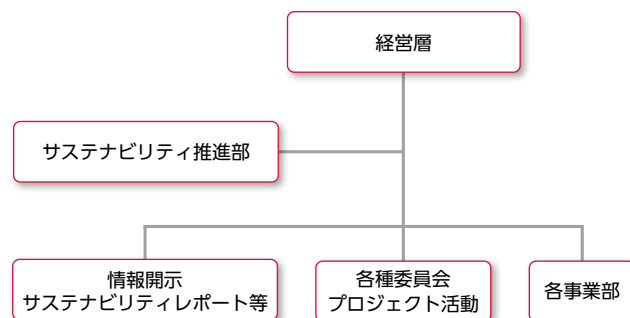
サステナビリティ推進体制

オカムラグループでは、サステナビリティ活動をより体系的、計画的に推進していくためにサステナビリティ推進部を設置しています。

サステナビリティ推進部では、経営層へ年度計画、活動実績の報告を行い、承認後に各種委員会を通じて各事業部の活動へ展開し、定期的にフォローしています。

また、各事業部の活動内容を各種委員会を通じて収集し、サステナビリティレポート等での情報の開示を行っています。

サステナビリティ推進体制図



◆ CSR推進プロジェクトで社内SDGs貢献事例を共有

CSR推進プロジェクトでは、取り組み分野やテーマに応じてプロジェクト会議や分科会を開催しています。2020年1月には、オカムラグループの取り組みにおけるSDGsへの貢献事例として、製品開発の企画段階からプロトタイプ、量産に至るまでの経過や困難の克服、今後の課題などを担当者が説明し、これを踏まえ、プロジェクトメンバー間でSDGsに貢献する取り組みや事業機会、推進にあたっての課題などについて討議しました。



プロジェクト会議の様子

外部イニシアティブへの参加

環境・社会・経済の課題解決に関連して、各種イニシアティブに参加しています。

◆ 国連グローバル・コンパクト

国際連合が提唱する「国連グローバル・コンパクト」は持続可能な社会を実現させようとする国際的な取り組みです。オカムラはこれに署名し、2020年2月に参加企業として登録されました。今後はグローバル・コンパクトの「人権」「労働」「環境」「腐敗防止」の4分野に関わる10原則について、積極的に取り組みを進め、国連へ年に1度、取り組み状況と成果を報告します。



◆ 気候変動イニシアティブ(JCI)

気候変動イニシアティブ(Japan Climate Initiative)は、気候変動対策に積極的に取り組む企業や自治体、NGOなどの情報発信や意見交換を強化するためのネットワークです。オカムラは2019年12月に会員になりました。



ISO26000対照表

*SDGsとの対照は、各章のトップページをご覧ください。

()は掲載ページ

中核主題	課題	関連項目
組織統治		トップメッセージ(11) オカムラグループのサステナビリティ推進(12) コーポレート・ガバナンス(26) リスクマネジメント(28) コンプライアンスの推進(31) 人権の尊重(34) 情報の開示と社会からの評価(35) オカムラグループの環境マネジメント(61) 従業員一人ひとりの働きがいの実現に向けて(89) 第三者意見・審査報告(109) オカムラグループのサステナビリティ活動のあゆみ(111) データ集(113)
人権	<ol style="list-style-type: none"> 1. デューデリジエンス 2. 人権に関する危機的状況 3. 加担の回避 4. 苦情解決 5. 差別及び社会的弱者 6. 市民的及び政治的権利 7. 経済的、社会的及び文化的権利 8. 労働における基本的原則及び権利 	トップメッセージ(11) オカムラグループのサステナビリティ推進(12) リスクマネジメント(28) コンプライアンスの推進(31) 人権の尊重(34) 情報の開示と社会からの評価(35) 製品開発におけるクオリティの追求(43) ダイバーシティ&インクルージョンの推進(94)
労働慣行	<ol style="list-style-type: none"> 1. 雇用及び雇用関係 2. 労働条件及び社会的保護 3. 社会対話 4. 労働における安全衛生 5. 職場における人財育成及び訓練 	トップメッセージ(11) オカムラグループのサステナビリティ推進(12) リスクマネジメント(28) コンプライアンスの推進(31) 情報の開示と社会からの評価(35) 品質管理の徹底(54) ものづくりを支える人財育成(56) 従業員一人ひとりの働きがいの実現に向けて(89) 従業員のワークインライフ実現へに向けた取り組み(91) ダイバーシティ&インクルージョンの推進(94) 人財育成(101) 健康経営・労働安全衛生(104)
環境	<ol style="list-style-type: none"> 1. 汚染の予防 2. 持続可能な資源の利用 3. 気候変動の緩和及び気候変動への適応 4. 環境保護、生物多様性、及び自然生息地の回復 	トップメッセージ(11) オカムラグループのサステナビリティ推進(12) 製品開発におけるクオリティの追求(43) 空間創造におけるクオリティの追求(50) オカムラグループの環境への考え方(58) オカムラグループの環境マネジメント(61) 2019年度環境活動実績と2020年度目標の設定(62) 事業活動と環境影響(63) 気候変動への対応(64) 省資源・資源循環(67) 化学物質管理と汚染の防止(71) 生物多様性保全・木材利活用~ACORN活動~(72) 製品・サービスにおける環境配慮(78) 環境教育・啓発活動(82) 環境コミュニケーション(84) 環境効率(86) 環境会計(87) データ集(113)
公正な事業慣行	<ol style="list-style-type: none"> 1. 汚職防止 2. 責任ある政治的関与 3. 公正な競争 4. バリューチェーンにおける社会的責任の推進 5. 財産権の尊重 	トップメッセージ(11) オカムラグループのサステナビリティ推進(12) コーポレート・ガバナンス(26) コンプライアンスの推進(31) 人権の尊重(34) 情報の開示と社会からの評価(35) 環境コミュニケーション(84)
消費者課題	<ol style="list-style-type: none"> 1. 公正なマーケティング、事実即ち偏りのない情報、及び公正な契約慣行 2. 消費者の安全衛生の保護 3. 持続可能な消費 4. 消費者に対するサービス、支援、並びに苦情及び紛争の解決 5. 消費者データ保護及びプライバシー 6. 必要不可欠なサービスへのアクセス 7. 教育及び意識向上 	トップメッセージ(11) オカムラグループのサステナビリティ推進(12) リスクマネジメント(28) 情報の開示と社会からの評価(35) 製品開発におけるクオリティの追求(43) 空間創造におけるクオリティの追求(50) 品質管理の徹底(54) オカムラグループの環境への考え方(58) 生物多様性保全・木材利活用~ACORN~活動(72) 製品・サービスにおける環境配慮(78)
コミュニティへの参画及びコミュニティの発展	<ol style="list-style-type: none"> 1. コミュニティへの参画 2. 教育及び文化 3. 雇用創出及び技能開発 4. 技術の開発及び技術へのアクセス 5. 富及び所得の創出 6. 健康 7. 社会的投資 	トップメッセージ(11) オカムラグループのサステナビリティ推進(12) 情報の開示と社会からの評価(35) 生物多様性保全・木材利活用~ACORN活動~(72) 地域社会との関わり(36) 社会へ向けた活動(39) データ集(113)